

会 議 次 第

日 時 令和2年1月20日（月） 午後3時00分～

場 所 船橋市役所 本庁舎7階 教育委員室

1. 開 会

2. 挨拶 生涯学習部長

3. 議 事

（1）令和元年度調査成果について

（2）総括報告書について

（3）その他

4. 閉 会

令和元年度第3回船橋市取掛西貝塚調査検討委員会委員名簿

委員 5名
(敬称略)

No.	氏名	ヨミ	所属等
1	阿部 芳郎	アベ ヨシロウ	明治大学教授・ 船橋市文化財審議会委員
2	樋泉 岳二	トイズミ タケジ	早稲田大学講師・ 明治大学研究・知財戦略機構 研究推進員
2	佐々木 由香	ササキ ユカ	明治大学黒耀石研究センター 客員研究員
3	谷口 康浩	タニグチ ヤスヒロ	國學院大學教授
4	堀越 正行	ホリコシ マサユキ	元市立市川考古博物館長

オブザーバー 1名
(敬称略)

No.	氏名	ヨミ	所属等
1	永塚 俊司	ナガツカ シュンジ	千葉県教育庁教育振興部文化財課 埋蔵文化財班 主任上席文化財主事

取掛西貝塚（8）調査成果概要

新たに台地南部縁辺などに 4 本のトレンチを設定し、遺構の分布範囲の補足調査を実施した。また、将来的に住居復元を行う際のデータを得るため、早期・前期の各時期 1 軒ずつ住居構造を把握するための調査を行った。トレンチの調査面積の合計は 989.565㎡。早期前半の竪穴住居跡 13 軒、前期前半の竪穴住居跡 4 軒を検出した。また、10 トレンチでは、井草式期の土坑や加曽利 E 式期の炉跡なども検出した。

今年度の調査による主な成果は以下のとおりである。

早期の集落範囲とその変遷

- ◎ 23 トレンチにおいて、「天矢場式」主体で東山式を含まない早期の住居跡を複数検出した。これにより、取掛西貝塚における撚糸文期の集落の分布範囲と変遷について最終的な様相を確認することができた。
- ◎ 25 トレンチにおいても早期の遺構を確認することができたため、台地南部縁辺まで早期の集落範囲が広がることがわかった。これにより集落の南限を確認することができた。
- ◎ 6 次調査で検出した 10 トレンチの井草式期の遺構が、住居跡ではなく土坑であることを確定できた。

住居構造の解明

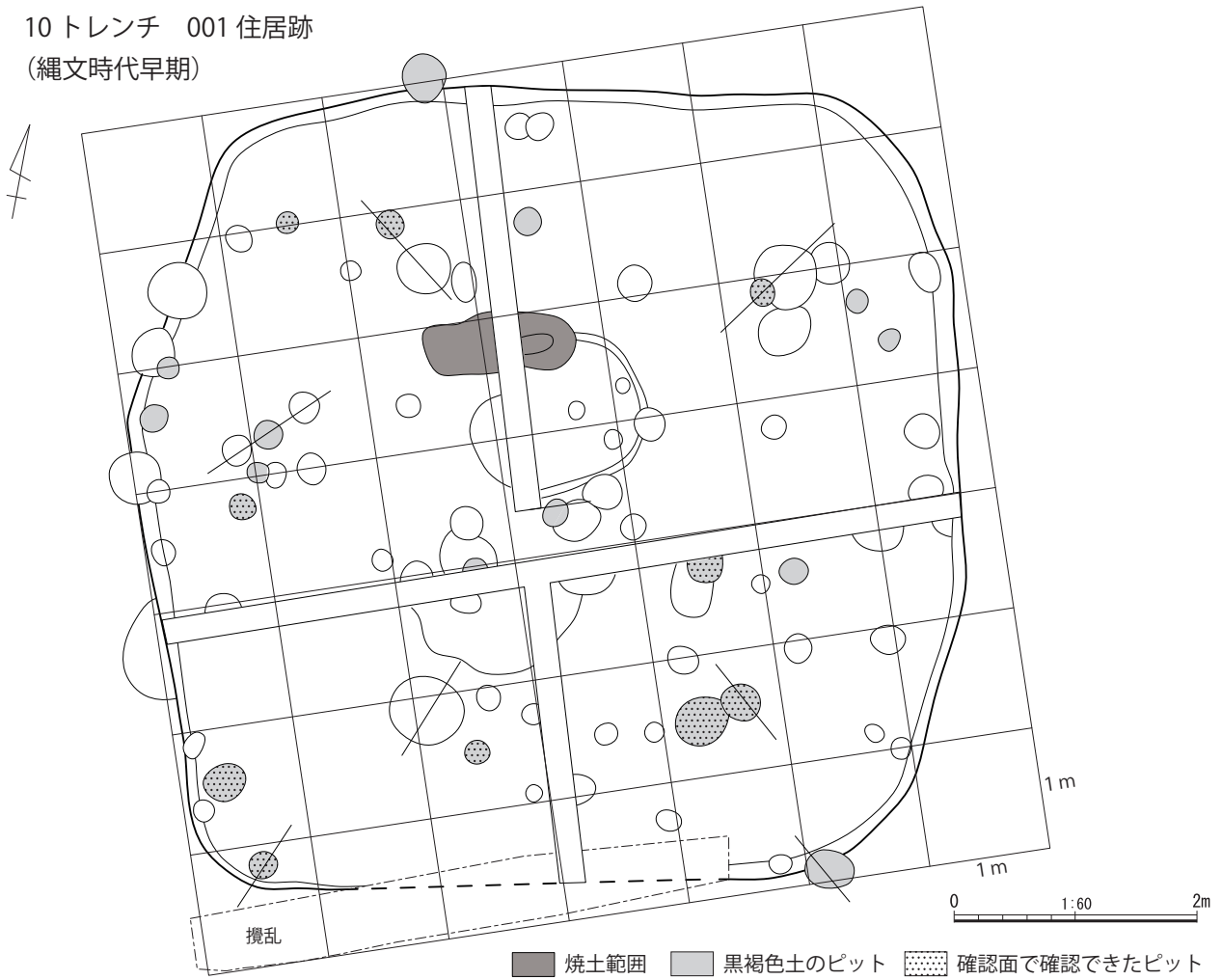
- ◎ 10 トレンチの早期竪穴住居跡を調査して、覆土の土壌サンプルを全量採取した。また、住居跡の内外においてピットの分布を確認するとともに、いくつかのピットを抽出して断ち割り調査を行い、その断面形態についても確認した。これにより、早期の住居構造を推測するための情報を得ることができた。
- ◎ 5 トレンチの前期竪穴住居跡を調査し、検出した貝層を全て採取するとともに、支柱穴の位置や深さについても確認できた。これにより、前期の住居構造を推測するための情報を得ることができた。

取掛西貝塚（8）トレンチ掘削面積及び検出遺構数

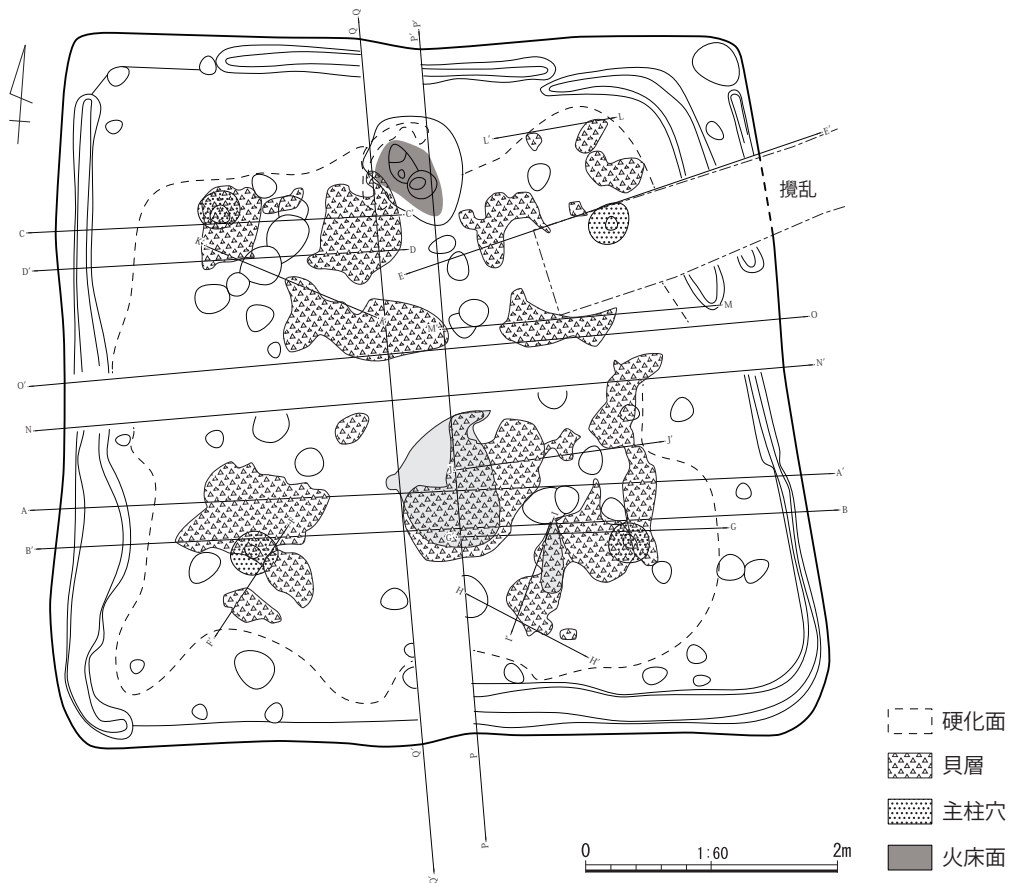
トレンチ 番号	面積 (㎡)	住居跡			竪穴状遺構	土坑	ピット	炉跡
		早期	前期	古代	早期	早期	縄文	中期
23Tr	286.379	5	—	—	—	16	135	—
24Tr	229.818	3	1	—	—	1	146	—
25Tr	94.252	—	—	—	—	1	27	—
26Tr	36.568	1	—	—	—	1	29	—
5Tr	142.786	1	3	—	—	4	102	—
10Tr	199.762	3	—	2	1	20	150	1
合計	989.565	13	4	2	1	43	589	1

※ 5 トレンチの前期住居数と 10 トレンチの早期住居数には、6 次調査で検出した各 1 軒の住居跡も含む。

10 トレンチ 001 住居跡
(縄文時代早期)



5 トレンチ
002 住居跡
(縄文時代前期)





縄文時代早期①(稲荷原式・花輪台式期)



縄文時代早期②(東山式・平坂式)



縄文時代早期③(平坂式・「天矢場式」)

取掛西貝塚 竪穴住居跡 時期別分布図①(縄文時代早期)



縄文時代前期①(二ツ木式・関山式)



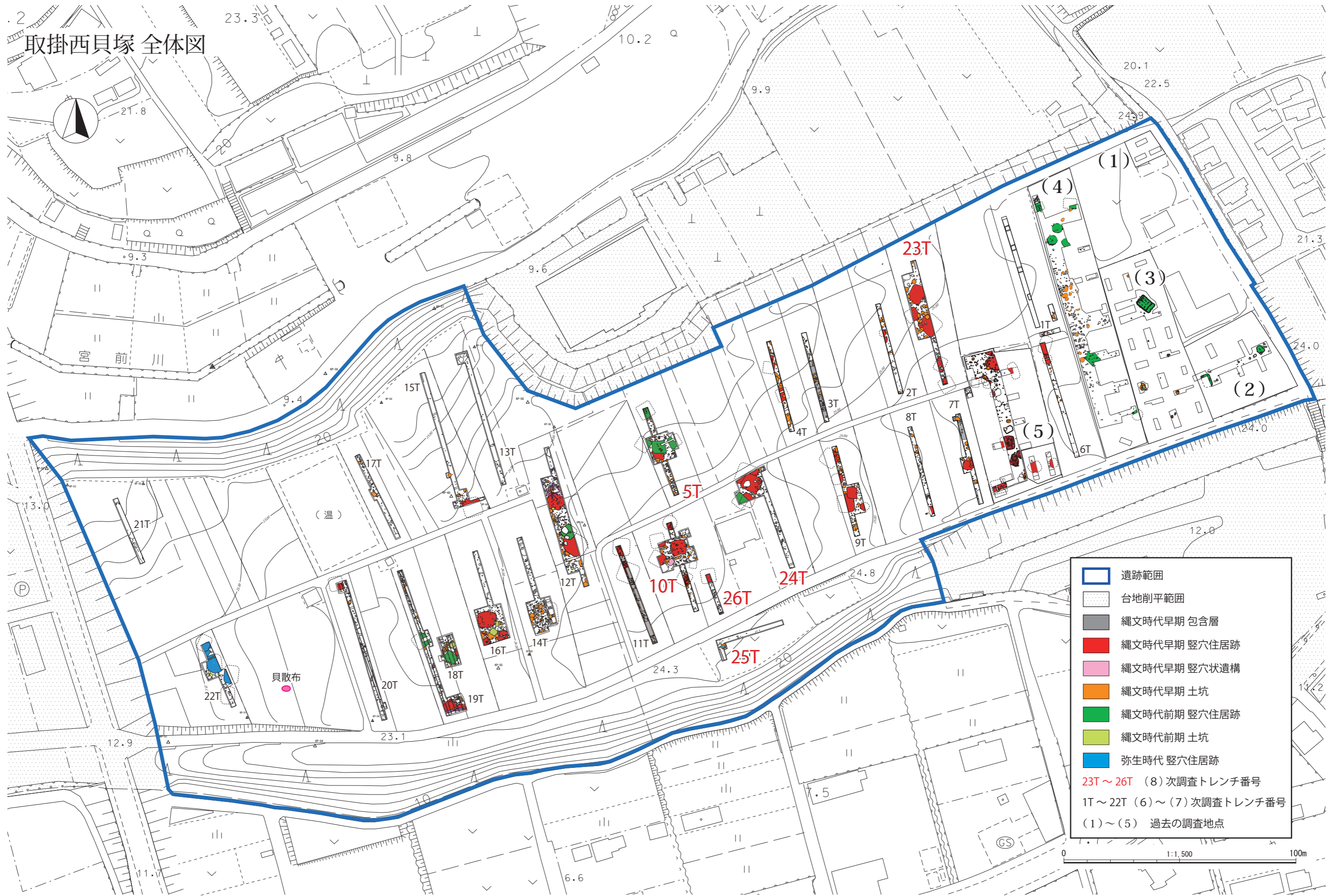
縄文時代前期②(黒浜式)



弥生時代中期(●)及び奈良・平安時代(●)

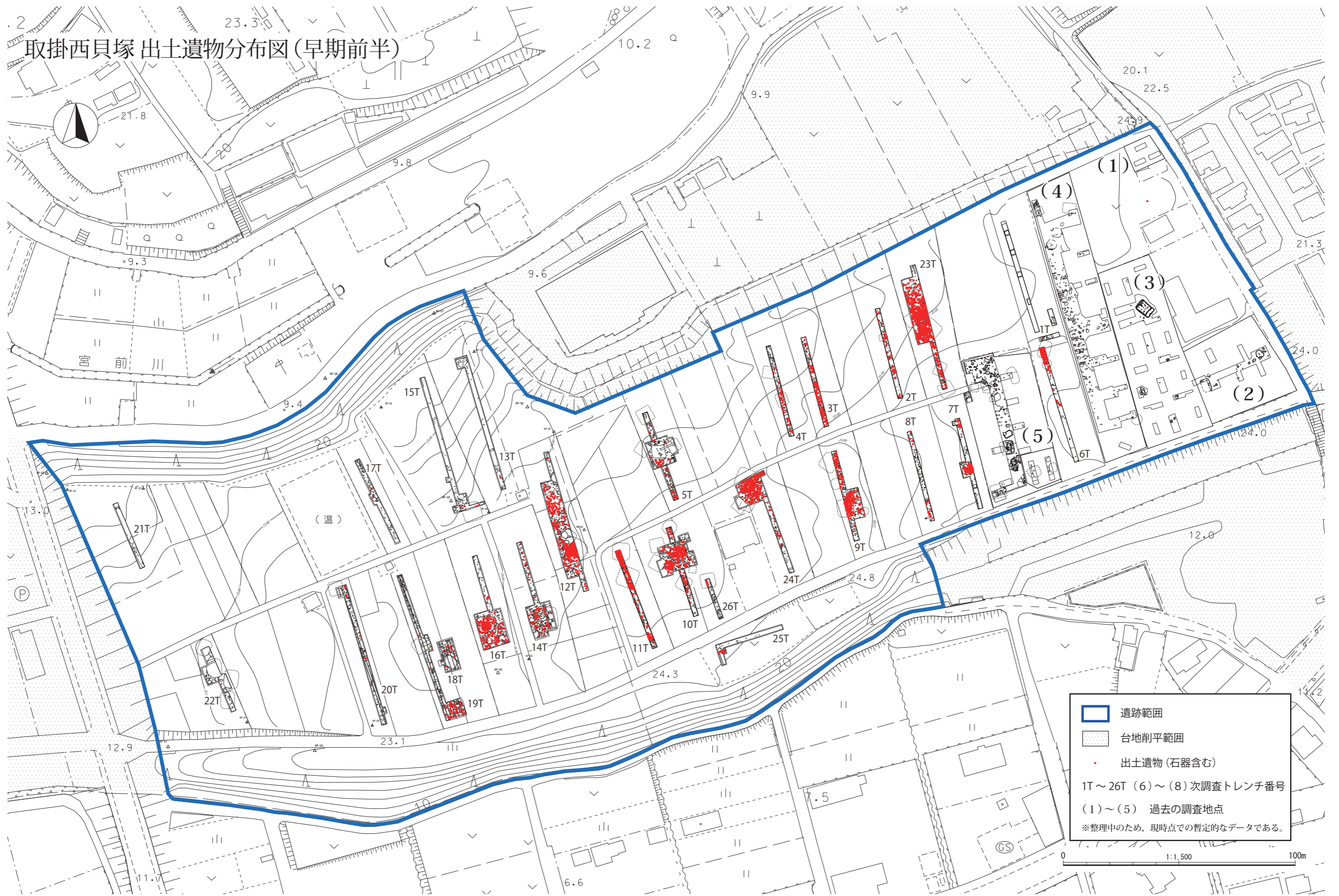
取掛西貝塚 竪穴住居跡 時期別分布図②(縄文時代前期以降)

取掛西貝塚 全体図



	遺跡範囲
	台地削平範囲
	縄文時代早期 包含層
	縄文時代早期 竪穴住居跡
	縄文時代早期 竪穴状遺構
	縄文時代早期 土坑
	縄文時代前期 竪穴住居跡
	縄文時代前期 土坑
	弥生時代 竪穴住居跡
23T ~ 26T (8)次調査トレンチ番号	
1T ~ 22T (6)~(7)次調査トレンチ番号	
(1)~(5) 過去の調査地点	

取掛西貝塚 出土遺物分布図(早期前半)



取掛西貝塚総括報告書目次（案）

巻頭カラー図版（沼野・白崎）

- * 取掛西貝塚の俯瞰空中写真・動物儀礼跡・出土土器集合写真（5次調査）・ツノガイ製品集合写真・骨角製品（針他）など

序文

例言（白崎・沼野）

凡例（白崎）

目次

第Ⅰ章 調査の経緯と目的

第1節 保存目的の調査に至るまでの経緯（文化課）

- ・ 分布調査・遺跡の範囲及び内容確認調査を実施するに至った経緯を説明する。
- ・ 取掛西貝塚調査検討委員会の設置と調査体制

第2節 調査の目的（文化課）

- ・ 保存目的の調査の目的と必要性を記述する。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境（早坂）

- ・ 取掛西貝塚が位置する地形・地理的な特徴を、縄文時代早期前葉および前期の東京湾や遺跡周辺の海進・海退を中心とした自然環境の変遷を意識して記述する。
- ・ 3Dレーザー測量の地形図を掲載

第2節 歴史的環境（早坂）

- ・ 関東を中心に縄文時代早期前葉の貝塚と集落遺跡を概観する。
- ・ 周辺の縄文時代（特に早期）の遺跡分布

第Ⅲ章 検出した遺構と遺物

第1節 調査の目的と方法（白崎）

- ・ これまでの調査概要について記述する。また、各調査次を通じて出土した土器を時期毎に大別し、形態や文様等から分類した類別・種別について説明する（「〇群△類」といった分類を想定）。
- ・ 保存目的調査（6~8次調査）のトレンチ設定の目的を説明し、掘削の方法、遺構内部調査の方法、遺構保存の方法について説明し、縄文時代早期前葉の竪穴住居跡の認定根拠（平面形態・遺物の集中・断面観察）や住居構造調査の目的と方法について記述する。

- ・ 自然科学分析の目的（当時の自然環境と動植物の利用について明らかにする）・計画・方法について、体系的に示す。

第2節 分布調査（白崎）

- ・ 保存目的の調査に先立ち実施した分布調査の概要を示し、遺跡範囲全域に縄文時代早期前葉の遺物が分布していることを記述する。

第3節 保存目的確認調査（白崎）

- ・ 6～8次調査で設定した各トレンチの遺構検出状況・遺物出土状況を記述する。

第4節 縄文時代（早期：白崎、前期：早坂）

- ・ 1～8次調査で検出した縄文時代の遺構と遺物について概観する。

第5節 弥生時代（白崎・植木）

- ・ 調査で検出した弥生時代の遺構と遺物について記述する。

第6節 その他の時代（白崎）

- ・ 1～8次調査で検出した縄文・弥生時代以外の遺構と遺物について概観する。

第IV章 成果と課題

第1節 集落の変遷（白崎）

- ・ 縄文時代早期及び前期の住居跡を中心に出土土器を基準とした集落の変遷案を提示する。
- ・ 生活痕跡があれば時期区分として設定し、通時的に遺跡の概要が把握できるよう記述する。

第2節 早期集落の構造と形成時期（白崎）

- ・ 出土土器から早期でも撚糸文末期を中心とした集落であることを示す。その範囲・規模について説明し、他の代表的な撚糸文期集落と比較する。

第3節 石器石材からみた取掛西貝塚の特徴（柴田）

第4節 動物資源の利用

第1項 食料としての利用

- (1) 貝類（黒住）
- (2) 脊椎動物遺体（樋泉）

第2項 道具としての利用（沼野・早坂・白崎）

- ・ 骨角製品について代表的なものを提示し、その特徴をまとめる。
- ・ 特にツノガイ製品について、製作遺跡という観点から成果と課題をまとめる。

第3項 動物儀礼跡（石坂）

- ・ 動物儀礼跡の構造及び「儀礼跡」である根拠と日本最古であることを示し、その意義について記述する
- ・ 動物儀礼が行われた意味・背景について考察する。

第4項 取掛西貝塚の動物資源利用の特徴と価値（樋泉）

- ・取掛西貝塚での早期前葉から前期まで、時系列で動物資源利用の変遷がたどれるように記述する。
- ・早期前葉の貝塚形成時期が限定されることを記述する。

第5節 植物遺体と資源利用

第1項 炭化種実（佐々木）

第2項 土器圧痕（佐々木・小畑）

第3項 取掛西貝塚の植物利用の特徴と価値（佐々木）

第6節 取掛西貝塚の古環境復元の成果と課題

第1項 ボーリング調査の目的と成果（パレオ・ラボ）

第2項 海進と古地形の復元（遠藤）

第3項 古植生の変遷（佐々木）

第4項 古環境復元の成果と課題（佐々木）

第7節 年代測定

第1項 目的と方法

- ・試料採取の目的、方法と選択について記述

第2項 結果

第3項 考察と課題

第V章 総括

第1節 取掛西貝塚の特徴と重要性（白崎・早坂・石坂）

第1項 東京湾東岸部最古の貝塚

- ・全国的にも希少な縄文時代早期前葉の貝塚であり、当時の環境復元や生業を明らかにできる重要な遺跡であること。
- ・東京湾東岸部で最古、関東地方でも6例目となる希少な早期前葉の貝塚であることを示す。

第2項 骨角器・貝製品の多量出土

- ・早期前葉の貝層中から骨角製品・貝製品が多数出土。
- ・ツノガイ製品に関しては現在のところ日本最多。製作遺跡としての可能性を示せるか。（これまで西広貝塚が最多で約1000点。）

第3項 最古の動物儀礼跡

- ・ヤマトシジミ貝層直下から日本最古の動物儀礼跡が発見されたこと。
- ・これまで、前期（東釧路貝塚）が最古だった動物儀礼が早期前葉までさかのぼることが明らかとなった貴重な事例であることを示す。縄文時代における人と動物の関係、精神文化を考えるうえで、その黎明期を明らかにできる重要な遺跡である。

第4項 集落とその変遷

- ・ 住居跡の分布状況から、早期前葉の集落範囲とその変遷を明らかにできる日本列島全体でみても希少な事例であること。
- ・ 早期前葉集落の分布域が明確であり、それが関東でも最大級の規模であることを示す。集落変遷が追えることから一定期間の土地利用が明らかであり、定住の可能性を提示できる。(ただし、貯蔵穴や墓、捨て場などの定住要件の証明は困難。また、定住が季節性か通年かを明らかにすることも難しい。動植物の資源利用から補完できるか。)

第2節 日本列島における取掛西貝塚（石坂）

- ・ 日本列島における取掛西貝塚の位置づけを記述する。
- ・ 縄文時代の国史跡（通時的）→早期前葉の国史跡（同時的）→早期前葉の貝塚

第3節 取掛西貝塚の保存と活用（文化課）

- ・ 取掛西貝塚の活用について、将来的な構想を記述する。
- ・ 取掛西貝塚とその周辺の縄文遺跡の地図を入れる

写真図版（白崎・沼野・箱石）

- ・ 遺構・遺物以外に見学会・発掘体験なども掲載

報告書抄録（白崎）

（令和2年1月20日）

<参考>

取掛西貝塚総括報告書目次（案）

※事前配布した案からの変更点等について赤字で示しています。

巻頭カラー図版

- * 取掛西貝塚の俯瞰空中写真・動物儀礼跡・出土土器集合写真（5次調査）・ツノガイ製品集合写真・骨角製品（針他）など

序文

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 調査の経緯と目的

（変更点）委員会の設置、調査の体制の記述を加える

第1節 保存目的の調査に至るまでの経緯

- ・ 分布調査・遺跡の範囲及び内容確認調査を実施するに至った経緯を説明する。

第2節 調査の目的

- ・ 保存目的の調査の目的と必要性を記述する。

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

- ・ 取掛西貝塚が位置する地形・地理的な特徴を、縄文時代早期前葉および前期の東京湾や遺跡周辺の海進・海退を中心とした自然環境の変遷を意識して記述する。
- ・ 3Dレーザー測量の地形図を掲載

第2節 歴史的環境

- ・ 関東を中心に縄文時代早期前葉の貝塚と集落遺跡を概観する。
- ・ 周辺の縄文時代（特に早期）の遺跡分布

第Ⅲ章 検出した遺構と遺物

（問題点）過去の調査（1～5次）のエッセンス部分とはじめて詳細報告する保存目的調査（6～8次）の記述が混在し、バランスがとりにくい。ボリュームが多い。

第1節 調査の概要

- ・ これまでの調査概要について記述する。また、各調査次を通じて出土した土器を時期毎に大別し、形態や文様等から分類した類別・種別について説明する（「○群△類」といった分類を想定）。

（変更点）「調査の目的と方法」とし、第3節の「調査方法」部分を第1節に移し、掘削の方法、遺構内部調査の方法、保存の方法も記述する。

<参考>

第2節 分布調査

- ・ 保存目的の調査に先立ち実施した分布調査の概要を示し、遺跡範囲全域に縄文時代早期前葉の遺物が分布していることを記述する。

第3節 各トレンチの概要と調査方法

(変更点) 調査の目的と方法に関する記述については、第1節に移す。

- ・ 保存目的の調査(6~8次調査)のトレンチ設定の目的を説明し、縄文時代早期前葉の竪穴住居跡の認定根拠(平面形態・遺物の集中・断面観察)や住居構造調査の目的と方法について記述する。
- ・ 6~8次調査で設定した各トレンチの遺構検出状況・遺物出土状況を記述する。

第4節 縄文時代

- ・ 調査で検出した縄文時代の遺構と遺物について記述する。

第5節 弥生時代

- ・ 調査で検出した弥生時代の遺構と遺物について記述する。

第6節 その他の時代

- ・ 調査で検出した縄文・弥生時代以外の遺構と遺物について記述する。

第IV章 自然科学分析

(変更点) V章「調査成果のまとめ」の記述のなかに組み込む。

- ・ 第1節で、自然科学分析サンプルの採取目的と採取方法について記述する。
- ・ 第2~7節は外部依頼原稿。取掛西貝塚の当時の自然環境と動植物の利用について明らかにする。

第1節 自然科学分析の目的と概要

第2節 貝類

第3節 脊椎動物遺体(鳥・獣・魚)

第4節 植物遺体(炭化種実・土器圧痕)

第5節 石器石材分析

第6節 ボーリング調査

第7節 年代測定

第V章 調査成果のまとめ

(変更点) 自然科学分析について、節だてを工夫してIV・V章をまとめる。あわせてVI章総括で繰り返しにならないように組み替える

第1節 出土遺物の特徴

第1項 土器

- ・ 住居跡出土資料のうち代表的なものを遺構ごとに提示し、その特徴をまとめる。
(「第3節 集落の変遷」記述の前提とする)

<参考>

第2項 石器

- ・ 出土した各器種について代表的なものを提示し、特徴をまとめる。

第3項 骨角器・貝製品

- ・ 代表的なものを提示し、その特徴をまとめる（特にツノガイ製品）。

第2節 早期集落の構造と形成時期及びその規模

(変更点) 集落変遷の全体像を先に示し、早期集落の特徴について掘り下げの方が理解しやすいため、2節と4節と記述の順番を入れ替える。

- ・ 出土土器から早期でも燃糸文末期を中心とした集落であることを示す。その範囲・規模について説明し、他の代表的な燃糸文期集落と比較する。

~~第3節 早期竪穴住居構造の特徴(予察)~~→削除

第4節 集落の変遷

(変更点) 生活痕跡があれば時期区分として設定する。

- ・ 縄文時代早期及び前期の住居跡を中心に、出土土器を基準とした集落の変遷案を提示する。

第5節 取掛西貝塚の古環境復元(予察)の成果と課題

第6節 動植物遺体と資源利用

(変更点) 動植物遺体全体についてまとめやすいように、節だてを工夫する。自然科学分析を中に含める。

- ・ 取掛西貝塚での早期前葉から前期まで、時系列で動・植物資源利用の変遷がたどれるように記述する。
- ・ 早期前葉の貝塚形成時期が限定されることを記述する。
- ・ 植物利用については、炭化種実と土器圧痕、花粉分析成果を総合して評価する。

第7節 動物儀礼跡

- ・ 動物儀礼跡の構造及び「儀礼跡」である根拠と日本最古であることを示し、その意義について記述する。
- ・ 動物儀礼が行われた意味・背景について考察する。

第VI章 総括

※ Vの繰り返しにならないように注意する。

第1節 取掛西貝塚の特徴と重要性

第1項 東京湾東岸部最古の貝塚

- ・ 全国的にも希少な縄文時代早期前葉の貝塚であり、当時の環境復元や生業を明らかにできる重要な遺跡である。
- ・ 東京湾東岸部で最古、関東地方でも6例目となる希少な早期前葉の貝塚であることを示す。

第2項 骨角器・貝製品の多量出土

<参考>

- ・ 早期前葉の貝層中から骨角製品・貝製品が多数出土。
- ・ ツノガイ製品に関しては現在のところ日本最多。製作遺跡としての可能性を示せるか。(これまで西広貝塚が最多で約 1000 点。)

第3項 最古の動物儀礼跡

- ・ ヤマトシジミ貝層直下から日本最古の動物儀礼跡が発見されたこと。
- ・ これまで、前期（東釧路貝塚）が最古だった動物儀礼が早期前葉までさかのぼることが明らかとなった貴重な事例であることを示す。縄文時代における人と動物の関係、精神文化を考えるうえで、その黎明期を明らかにできる重要な遺跡である。

第4項 集落とその変遷

- ・ 住居跡の分布状況から、早期前葉の集落範囲とその変遷を明らかにできる日本列島全体でも希少な事例であること。
- ・ 早期前葉集落の分布域が明確であり、それが関東でも最大級の規模であることを示す。集落変遷が追えることから一定期間の土地利用が明らかであり、定住の可能性を提示できる。(ただし、貯蔵穴や墓、捨て場などの定住要件の証明は困難。また、定住が季節性か通年かを明らかにすることも難しい。動植物の資源利用から補完できるか。)

第2節 日本列島における取掛西貝塚

- ・ 日本列島における取掛西貝塚の位置づけを記述する。

第3節 取掛西貝塚の保存と活用

※ 簡潔でよい。

- ・ 取掛西貝塚の活用について、将来的な構想を記述する。

写真図版

- ・ 遺構・遺物以外に見学会・発掘体験なども掲載

報告書抄録

(令和2年1月14日)

取掛西貝塚保存事業スケジュール

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度～	備考
分布調査	5万㎡						終了
確認調査		① 東半部 終了	② 西半部 終了	③ (①②の残 部) + 補足調査			
地形測量		●	● 3D地形測量・ オルソ画像	● 空撮(3D画像 作成)			
自然環境調査			—————→				
分析・整理作業		—————→					
国史跡指定に向けた手続き(最短の場合)					●12月総括 報告書刊行→ 1月意見具申	国指定 6月答申→10 月告示	R2年12月 に(5)Ⅱ と総括報告 書刊行予定
地権者交渉・説明		●	●	●	●	●	・意見具申前に 指定同意 ・指定後、整備 に伴う買収交 渉
普及活動		11月報告講演会、 1月考古学講座、 発掘体験等実施	2月飛ノ台企画展 3月17日講演会 発掘体験等実施	11～12月北西部展 示 3月14日講演会 発掘体験等実施	3月講演会	シンポジウム	指定後も継 続
遺跡見学会		●	●	●			
専門委員会			●	—————→			R3から新委員 会で保存活用 計画検討
その他	F 地点市史跡 指定	市単でF地点購入。 『ふなばしの遺跡』刊 行	市単でS地点購入 (市史跡追加指定)。 取掛西貝塚入門編リ ーフレット発行	千葉県地方土地開発 公社に委託してM地 点先行取得(市史跡 追加指定)。 取掛西貝塚概報発行 (5/19日本考古学協 会で配布)。 取掛西貝塚中級編パ ンフレット発行	取掛西貝塚子供向 けパンフレット発 行・入門編リーフレ ット増刷		
事業費	983千円	97,548千円	154,190千円	37,410千円			
国庫補助金	0千円	3,408千円	8,181千円	10,081千円			
県補助金	0千円	681千円	1,636千円	2,016千円			
地方債(用地取得)	0千円	85,400千円	0千円	0千円			
市費(一般財源)	983千円	8,059千円	144,373千円	25,313千円			

※H28・29・30は決算額、R1は予算額。国庫補助金・県費補助金の額は、H29・30実績額、R1内示額。

令和2年度 船橋市取掛西貝塚調査検討委員会スケジュール（案）

時 期	項目（会場）	内 容
令和2年5月後半	第1回 調査検討委員会 （船橋市役所）	(1) 史跡候補範囲について（報告） (2) ボーリング試料の分析について (3) その他
11月後半	第2回 調査検討委員会 （船橋市役所）	(1) 総括報告書について（原稿最終確認） (2) 指定手続きの進捗について（報告）
12月	『取掛西貝塚（5）Ⅱ』 『取掛西貝塚総括報告書』 刊行	
令和3年1月	国史跡指定の意見具申	
3月	第3回 調査検討委員会 （船橋市役所）	(1) 国史跡指定の意見具申報告 (2) 保存活用について
3月	令和2年度 取掛西貝塚講演会	

令和元年度 普及事業の実施について

① 遺跡見学会・発掘体験 延べ参加人数 524 人

NO	内容	開催日	参加人数
1	芝山西小 体験発掘	6月26日(水)	38
2	遺跡見学会	8月10日(土)	469
3	地権者向け遺跡見学会	8月24日(土)	17

※報道関係者向け現地説明会(8/7)

※大学生発掘参加(29人)

② 講座等 延べ参加人数 1,029 人

NO	内容	開催日	参加人数
1	史談会	5月24日(金)	16
2	小中学校教員初任者研修 座学(視聴覚センター)	6月5日(水)	150
3	出前講座(西部公民館)	6月12日(水)	80
4	芝山東小学校6年生出前授業と取掛西貝塚見学会	6月21日(金)	54
5	芝山中学校社会科授業協力	6月24(月)・25日 (火)	52
6	芝山高 出前授業	7月1日(月)	83
7	中教協 見学と講義	7月3日(水)	35
8	芝山高 見学	7月11日	5
9	まちづくり出前講座(さざんか芝山いこいの家)	7月16日(火)	35
10	明治大学博物館友の会(縄文)見学	8月1日(木)	22
11	小中学校教員初任者研修 現場見学	8月2日(金)	150
12	小中教頭会 見学会	8月8日(木)	15
13	はさまいきいき塾	8月29日(木)	33
14	新高根公民館事業 見学	9月3日(火)	10
15	国立歴史民俗博物館友の会見学	9月5日(木)	11
16	市民グループ見学	9月13日(金)	6
17	都市計画課まちづくり公開講座 第一部「古代の人のまちづくり」	10月8日(火)	50
18	正伯塾(薬円台自治会館)	10月15日(火)	25
19	出前講座(坪井公民館)	11月8日(金)	79
20	船橋地名研究会	11月17日(日)	22
21	高根東小学校(3年生)出前授業と地区探検	11月28日(木)	96
22	市民大学校(2コマ)	2月28日(金)	

※市議会議員見学(8/9 公明党2人)・市議会議員初当選者を中心とした視察(7/9・12名)

③ 講演会・展示 延べ参加人数 3,634人

NO	内容	開催日	参加人数
1	千葉県北西部地区 展示(飛ノ台史跡公園博物館)	11月2日(土)～ 12月15日(日)	2,878
2	縄文大学「イノシシの考古学」(國學院大學 阿部常樹氏)	11月6日(水)	70
3	縄文大学『縄文人は土器で何を調理していたのだろうか?』(東京大学総合研究博物館 宮田佳樹氏)	11月13日(水)	88
4	縄文大学「取掛西貝塚縄文時代早期の野生植物利用と外来栽培植物」(学習院女子大学 工藤雄一郎氏)	11月27日(水)	68
5	千葉県北西部地区文化財発表会「海と生きる」(中央公民館)	12月14日(土)	257
6	千葉県北西部地区文化財発表会 ワークショップ(中央公民館)	12月14日(土)	273
7	考古学講座「取掛西貝塚の動物考古学的調査と整理」(横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター 波形早季子氏)	1月18日(土)	
8	学術調査記念講演会「取掛西貝塚を考える」(勤労市民センター) (禰亘田佳男氏・佐々木由香氏・市職員)	3月14日(土)	

※1. 北西部展示：会期38日、ギャラリートーク45人(11/2午前・午後各1回)・無料観覧(11/2～4の3日間：384人)

④ その他

- 動物考古学会発表(6/15 千葉生涯学習センター・発表は樋泉氏)・リーフレット配布(110部)
- 広報課記録映像撮影(8/9)
- 第29回教育フェスティバル「児童生徒社会科作品展」取掛西貝塚テーマ作品出品
※市役所ロビー(10/8～10/10)・飛ノ台史跡公園博物館(11/2～12/15)でも展示

⑤ 刊行物

概要報告書を国庫補助金を活用して刊行し(国庫補助300部・市費増刷700部)、日本考古学協会(5/19 駒澤大学)で配布(300部)したほか、図書館・自治体ほかに送付した。

普及用遺跡マップ1万部を、国庫補助(地域の特色ある埋蔵文化財活用事業)を受けて、刊行し、市内の小学校(6年生全員)に重点的に配布した。また、取掛西貝塚中級編パンフレット1万5千部を3月に刊行する予定である。

刊行物名	部数	配布先
取掛西貝塚-第1次～第7次発掘調査 概要報告書	1,000部・無料 (国庫補助300部)	図書館・自治体・博物館ほか
遺跡マップ 第5版	1万部・無料	市内小学校6年生・博物館・公民館等に配布
取掛西貝塚パンフレット	1万5千部・無料	文化課・市内博物館・図書館等で配布予定

⑥ 広報・情報発信(HP・FB、広報ふなばし他)

新聞4紙掲載、CATV・千葉テレビ放映

令和元年度 船橋市取掛西貝塚調査検討委員会・作業部会

No	開催日時	場 所	会 議 名	出 席 者	内 容
1	令和元年5月20日 15:00~16:30	船橋市役所本庁舎 701 会議室	第1回 船橋市取掛西貝塚調査検討委員会	阿部委員長、樋泉副委員長、堀越委員、谷口委員、佐々木委員 (オブザーバー) 永塚氏(県文化財課)	・令和元年度 調査計画について ・スケジュールについて 他
2	令和元年6月7日(金) 13:45~16:30	明治大学猿楽町第二校舎 考古学専攻実習室	植物考古学・古環境作業部会(ボーリングコア検討会)	阿部委員長、樋泉副委員長、佐々木委員(部会長)、遠藤先生、能城先生、森氏	・ボーリング候補地について ・ボーリングコアの分析方針について
3	令和元年7月18日(木) 13:30~15:30	取掛西貝塚調査現場	動物考古学および植物考古学・古環境作業部会	樋泉副委員長(部会長)、堀越委員、佐々木委員(部会長)	・竪穴住居跡(縄文早期)の調査について ・土壌サンプリング方法等について
4	令和元年8月5日(月) 14:00~17:15	取掛西貝塚調査現場	第2回 船橋市取掛西貝塚調査検討委員会	阿部委員長、樋泉副委員長、堀越委員、佐々木委員 (オブザーバー) 齋藤文化財調査官(文化庁)、高梨副課長・永塚氏・吉野氏・會田氏(県文化財課)	・調査現場視察
5	令和元年10月31日(木) 14:00~17:45	埋蔵文化財調査事務所	動物考古学および植物考古学・古環境作業部会	樋泉副委員長(部会長)、佐々木委員(部会長)、黒住氏	・土壌サンプルの水洗・選別作業進捗状況について ・8次調査 縄文前期貝層の分析候補について ・今後の分析スケジュールについて
6	令和2年1月20日(月)	船橋市役所本庁舎 (場所未定)	第3回 船橋市取掛西貝塚調査検討委員会	(予定) 阿部委員長、樋泉副委員長、堀越委員、谷口委員、佐々木委員 (オブザーバー) 永塚氏(県文化財課)	・令和元年度 調査成果について ・総括報告書について 他

【先進自治体視察報告】

視察日程：令和元年11月21日（木）13：00～15：30

視察先：山梨県北杜市 梅之木遺跡

参加者（7名）：文化課 大屋課長、白井係長、植木主任主事、永塚主事

埋蔵文化財調査事務所 小林副主査、白崎主任主事、早坂主事

梅之木遺跡の素晴らしい点

○立地の優位性

- ・周囲を山々に囲まれ、史跡近くに大きな建物・宅地がない
⇒縄文時代にタイムスリップしたような感覚



（写真1）梅之木遺跡遠景

○整備の方針・コンセプト

- ・観光・経済振興ではなく、あくまで市民の学習の場という位置づけ
⇒史跡が長期的に必要とされる構造
- ・作りすぎない整備（あえて整備しすぎない整備）
⇒市民が参加して作り上げていく「体験する縄文」
⇒地元住民を巻き込む形で進められる整備事業
⇒変化し続ける景観

○復元住居

- ・市民が当時の建築作業をリアルに体感することができる
- ・体験学習用の住居骨組みキット
⇒完成モデルも複雑ではなく、木材も子どもたちが協力すれば持てるサイズで
あり、大人も子どもも一緒に楽しめる工夫



（写真2）復元中の住居



（写真3）住居骨組みキット

・居心地の良い空間づくり

⇒「見たらすぐ帰る」から「一定時間以上の滞在」へ



写真4 復元住居外観(赤枠内は天窗)

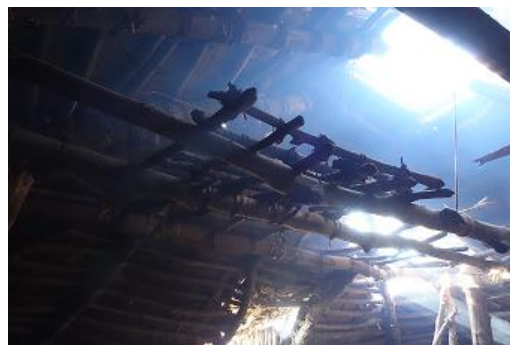


写真5 明るい住居内



写真6 住居内部

○管理人(縄文人)の存在

・他ではできない「縄文人」とのコミュニケーションの場

⇒リピーター、再訪の見込み



写真7 炉で火おこしをする縄文人

視察を通して見えてきた梅之木遺跡の保存・活用のポイント

- ① 遺跡の特徴を捉え、その世界観を壊さない整備
- ② 市民自らが史跡を誇りに思うことができる仕組み
- ③ 来訪者に「もう一度訪れたい」と思わせる仕掛け